

対話でつなぐ授業 一考察

岩瀬 竜弥



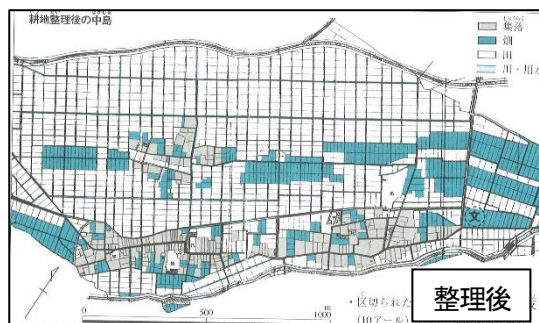
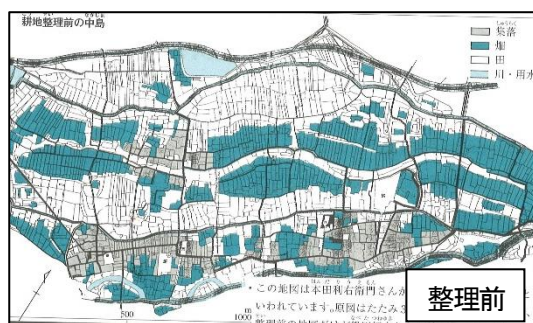
指導員訪問⑦

4年 社会科「きょう土（六ツ美）をひらく」 野口 慎史教諭

平成から令和へ。この六ツ美は、100年以上続く「悠紀齋田」を大切にしてきました。運動会での踊り「六ツ美大嘗祭」も受け継がれています。また、常に洪水と戦ってきた地でもあります。野口教諭は、子供たちにこの地域に誇り、愛情、そして地域の一員としての自覚をもってほしいと願い単元を設定しました。先人はなぜ大規模な耕地整理に取り組んだのか、何が変わったのか、人々の願いや努力を考え表現する中で、今の生活とかかわって考える姿に迫ったかどうかです。

野口教諭は、中学時代の職場体験で、小学生への水泳インストラクターを通して指導する楽しさが教師への第1歩に。教育大学では、すでに「忙しい現場」のうわさが飛び交っていました。しかし、教育実習で出会った子供たちから「自分たちの力で乗り越えられる教育を！」と覚悟を決めました。野口教諭が地域素材を扱うことで、将来を願う思いが伝わりました。

さて、本時では、耕地整理をする必要性に迫るために、用意した2つの資料から整理前後の変化、理由を読み取りノートに整理した後、ペア対話へ。「一番先に整備」「米や麦も作っていた」「2年目かかっていた」と互いに確認し合いクラス対話です。授業記録のように次々に出された事実ですが、**人々の思い**に迫るために資料の活用の仕方、問い返すタイミング等、かなり熱く研究協議がされました。C7から「まっすぐにするとどうなるの？」と切り込む意見がありました。当時の狙いや苦労に迫るためです。私



- C1：生産量、米の面積が1.3倍、収穫高が1.4倍に。(=量)
- C2：整理する前に学校がなかった。後に学校ができた。
- C3：P49に「利用を促進・・・」目的が示され、それを受け始まった。(=目的)
- C4：P105に田畑が長方形に区切られて、まっすぐになった。昔の人は仕事に努力していた。(=当時の人)
- <略>—
- C7：比べてみて、前は川、用水が多かった。後はまっすぐに流れていた。(=治水)
(授業記録より一部抜粋)

は、具体的に人に触れたC7の発言を受けて「どうして努力しないとイケなかったの?」「区切られない方がいいのでは?」と揺さぶりますが、皆さんいかがでしょうか。

「しないとイケないから」と耕地整理の理由についてスタートした子供たち。最後に「市民のため、喜ばせたかった」「みんなで協力して食べ物を増やす」と振り返りで当時の思いに迫り驚かされました。野口教諭より、「悠紀の里」でのサポーターの方々の熱い受け答えに、子供たちが大切に受け継がれた意味を感じたから、と。